

2014年5月20日  
第113号  
(Web版第7号)

# 日本犯罪社会学会ニュース

発行

日本犯罪社会学会  
JAPANESE ASSOCIATION OF  
SOCIOLOGICAL CRIMINOLOGY

- I 大会実行委員長挨拶
- II 第41回(2014年度)大会 自由報告募集
- III 第41回大会の内容について
- IV アジア犯罪学会第6回年次大会へのご参加を
- V 各部・委員会報告

※第107号からニューズレターはWebのみで発行しております。  
※会員動向につきましては、年間2回(大会プログラム発送時、大会報告要旨集発送時)会員のみに詳細版を同封いたします。

## I 大会実行委員長挨拶

第41回大会の開催にあたって

新 恵里（京都産業大学）

このたび、日本犯罪社会学会第41回大会を、京都産業大学において開催させていただくこととなりました。本学にとりまして、大変光栄なことであり、学長であります、藤岡一郎会員、社会安全・警察学研究所所長の田村正博会員を始め、久保秀雄会員ら、本学関係者一同、皆さまを歓迎いたします。

京都産業大学は、昭和40年（1965）、宇宙物理学者・荒木俊馬によって京都・神山の地に創設され、来年、設立50周年を迎えます。開学当初は、経済学部、理学部の2学部でありましたが、2013年現在、9学部、大学院9研究科、8研究所・センター、天文台（私立大学最大規模）、附属中・高等学校、幼稚園を擁する規模となりました。また、昨年、壬生（みぶ）の地にあります「むすびわざ館」に設立されました、社会安全・警察学研究所は、今年で設立1周年を迎えます。

本学は現在、設立半世紀を迎えるにあたって沸いております。この時期に、皆さまを本学にお迎えできることも、大変うれしく思っております。

「いかなる国家社会においても、大学は最高の研究・教育の機関である。大学の使命は、将来の社会を担って立つ人材の育成にある。

その教育の目標は、高い人格をもち、人倫の道をふみはずすことなく、社会的義務を立派に果たし得る人をつくることであり、しかもその職域が国内であろうと海外であろうと、その如何を問わず、全世界の人々から尊敬される日本人として、全人類の平和と幸福のために寄与する精神をもった人間を育成することである。

このような人間は、日本古来の美しい道徳的伝統を精神的基盤とし、東西両洋の豊かな文化教養を身につけ、絶えず変動する国内情勢に関して十分な知識をもち、その科学的分析によって正しい情勢判断のできる能力を備え、如何なる時局に当面しても、常に独自の見解を堅持し自己の信念を貫き得る人間である。」これが、本学の建学の精神です。

また、荒木俊馬は、京都産業大学の「産業」を「むすびわざ」と表し、「むすぶ」は「産（むす）す」という語源を持つことから、「新しい業（わざ）をむすぶ」という意味を込めました。京都産業大学が創立時から大切にしてきた精神です。

「むすびわざ」によって、新しい業（わざ）、価値、人材を産み出す、社会と連携し、共創し合う場を形成することを、本学の目標としております。

私事で恐縮ですが、私自身が本学出身であり、このような建学の精神の基に学びながら、その役割を担っているかと自問自答しつつ、また、本学で教鞭をとるようになってからは、そのような人材を産み出すことができているかどうか、学生の指導等に悪戦苦闘しながら、これまた自問自答の毎日です。

神山キャンパスは、敷地内の高低差が大きく、移動等でご不便をおかけすることも多々あるかと存じます。風光明媚な地ではございますので、どうかご容赦いただき、せめて、京都市内の景色をお楽しみいただければと存じます。私が学生時代の頃には、えっさ、ほっさと、階段上り下りしていたのですが、近年、バリアフリー化が進められ、屋外に3基のエレベーターが設置されました。皆さまのご移動の一助になればと存じます。

毎年、ホスピタリティにあふれた開催に参加しておりますと、私自身、皆さまにご満足いただけるか、甚だ心許なく存じますが、大会開催中も、お気づきの点がございましたら、いつでもご指摘いただければと存じます。

今秋、紅葉が色づき始める京都の北・神山の地におきまして、多くの皆さまとお会いできますことを、心より楽しみに、お待ち申し上げます。

## II 第41回(2014年度)大会 自由報告募集

研究委員会では、会員の皆様の自由報告を募集いたします。

●申込方法：Eメール

●申込先：kenkyu2014@yahoo.co.jp

※上記以外（例えば学会事務局など）へのお申込みは、ご遠慮下さい。

・ Subject(件名)：自由報告

・ 本文

申込者氏名：

申込者所属：

報告タイトル：

共同研究者氏名：

共同研究者所属：

プロジェクトの要否：

大会プログラム掲載の報告概要の原稿（150字以上 200字以内）：

・ グループの場合、当日報告される方の氏名の前に「o」をつけて下さい。

・ 申込者、報告者は、会員に限ります。

●申込締切：2014年6月1日(日)必着

・ 問い合わせ先：日本犯罪社会学会研究委員会（担当委員：小関慶太）

E-MAIL：kenkyu2014@yahoo.co.jp

\* 申込み締切が例年よりも早くなっておりますのでご注意ください。また、例年とは異なり、大会プログラム原稿を申込みと同時に提出していただく必要がございますのでご注意ください。

\* 自由報告は、1名でもグループでも申し込めます。

\* 申込者、報告者は会員に限ります。共同研究者は、会員でなくても構いませんが、当日の報告はできません。

\* 報告時間は1件30分以内（報告時間：20分程度、質疑応答：10分程度）となります。

\* 1件の申込みにつき1つの報告となります。共同研究者がいる場合でも、時間は変わりませんのでご注意ください。

\* 会員1名につき申込み件数及び報告件数は1件までとなります。ただし、他の報告者の共同研究者となることは妨げません。

\* プロジェクトの使用を希望される場合は、その旨を申込みの際に必ずご記入下さい。なお、大会当日、報告者ご自身でご持参いただく機材（PC、USBメモリ等）については、使用できる会場の設備が決まり次第、研究委員会からご連絡差し上げます。

\* 申込みを受理致しましたら、今後の予定について、折り返しご連絡いたします。もし、返信が無い場合、念のため確認のご連絡を下さいますようお願いいたします。

\* 提出したプログラム原稿の訂正は、原則として出来ません。

## III 第41回大会の内容について

第41回大会のシンポジウム、テーマセッション、自由報告は、2014年10月18日(土)、19日(日)に京都産業大学（京都府京都市）にて開催されることとなりました。現在、予定している事項につきまして、以下の通りご報告いたします。

## 1 タイムテーブル

10月18日(土)

9:30-12:00 自由報告  
12:00-13:20 昼休み  
13:20-17:00 学会企画テーマセッション  
17:10-17:50 総会  
18:00- 懇親会

10月19日(日)

9:00-12:00 公募テーマセッション  
12:00-13:20 昼休み  
13:20-16:50 シンポジウム  
16:50-17:00 閉会式

## 2 企画内容について

現在のところ予定しているシンポジウム、テーマセッションのテーマ・コーディネータは次の通りです。

### (1)シンポジウム

テーマ：少年非行と非行少年処遇の過去・現在・未来  
コーディネータ：鮎川 潤（関西学院大学）  
報告者：伊藤茂樹（駒澤大学）  
加藤幸雄（日本福祉大学）  
岩井宣子（専修大学）  
百瀬恭章（更生保護施設立正園）  
指定討論者：野田正人（立命館大学）  
武内謙治（九州大学）

### (2)学会企画テーマセッション

研究委員会では、18日(土)に、海外から研究者を招聘した特別セッションを企画しております。

テーマ：非行・犯罪からの立ち直り：理論・実証・実践  
コーディネータ：浜井浩一（龍谷大学）  
基調講演：Bonita Veysey（ラトガーズ大学）  
報告者：津富 宏（静岡県立大学）  
岡邊 健（山口大学）  
飯野雄治（稲城市子ども家庭支援センター）

### (3)公募テーマセッション

\*テーマ：日本社会の変容をふまえた犯罪予防対策の最前線  
コーディネータ：齊藤知範（科学警察研究所）  
\*テーマ：日本における死刑の行方  
コーディネータ：永田憲史（関西大学）  
\*テーマ：最近の‘少年の逸脱行動’への社会的対応  
コーディネータ：内山絢子（目白大学）

\*テーマ：犯罪者を親にもつ子ども達への支援の必要性  
コーディネータ：矢野恵美（琉球大学）

## IV アジア犯罪学会第6回年次大会へのご参加を

宮澤節生（青山学院大学・アジア犯罪学会第6回年次大会実行委員会副委員長）

アジア犯罪学会第6回年次大会の準備は、多くの皆様のご協力と、有能な事務局スタッフの努力とによって、きわめて順調に進んでいます。6名の基調講演者、11名の全体会報告者のほかに、3つのワークショップ（基調講演者のうち3名が自己の理論の検証方法について検討する）、27の申込部会、120の個人報告（28部会に編成）があり、4月26日現在、参加登録者も400名近くに達していて、おそらくアジア犯罪学会の年次大会として最大の規模になると思われます。登録者の国別上位は、日本（146）、台湾（68）、中国（39）、アメリカ（23）、韓国（17）などとなっています。

しかし、我が国の犯罪・刑事司法研究者の数を考えれば、146名というのは、決して満足すべき数ではありません。そのことは、犯罪社会学会についても指摘できるのではないかと思います。日本にいながらにして国際学会に参加できる得がたいチャンスですので、より多くの会員が参加されることを期待しています。

大会サイト：<http://www.acs2014.com/>

## V 各部・委員会報告

### 1 研究委員会

1)前号ニューズレターにて、第41回大会におけるテーマセッションの企画を公募致しましたところ、4件のご応募をいただきました。来年度大会以降も、企画の公募を実施する予定です。会員の皆様からのご応募をお待ちしております。

2)「第41回大会プログラム」は、8月下旬に発行の予定です。また、大会に関する今後の情報は、学会ホームページでお知らせ致します。

### 2 編集委員会

『犯罪社会学研究』39号の自由論文・研究ノートの投稿締切りは2014年5月31日です。HPおよび最新の既刊号所載の投稿規程に従って、下記住所宛にご送付ください。なお、投稿は常時受け付けております。会員の皆様のご投稿をお待ちしております。

なお、38号では、現在、注目されている「犯罪認知件数の減少」を課題研究のテーマにしました。この課題に関連する多くの自由投稿が寄せられ、犯罪社会学の学術的議論が活性化することを期待しています。もちろん、他のテーマでも結構です。本誌が犯罪社会学の自由な学術フォーラムとなることを期待しています。

### <自由論文・研究ノートの投稿先>

〒160-0004 東京都新宿区四谷2-10 八ッ橋ビル7階 現代人文社気付  
日本犯罪社会学会編集委員会

学会誌編集業務に関するご意見・ご質問につきましては、下記までお寄せください。

<編集委員会事務局>

hanshahenshu14@gmail.com

### 3 渉外広報委員会

渉外広報委員会では、犯罪社会学に関する研究会に対し、助成を行っております。年度ごとに2件、1件あたりの助成金は40,000円です。本助成を申請する際には、事前に申請責任者の名前と住所ならびに所属、研究会の名称、助成を申請する研究会の開催日時・開催場所・内容（テーマ、タイトル等）を、渉外広報委員会までご連絡ください。連絡先は下記のとおりです。受付後、速やかに審査手続きを行い、採否のご連絡をいたします。なお、研究会開催後の申請は受け付けておりません。採用が決定した際には、渉外広報委員会より助成金の振り込みを行います。後日、申請責任者には、領収書の提出等の事務手続きを担当していただきます。

連絡先：野田陽子（yokonoda@soc.shukutoku.ac.jp）

日本犯罪社会学会事務局（hansha@daishodai.ac.jp）

### 4 本部事務局会計部

会費納入のお願い

新年度となりましたので、2014年度の会費の納入をお願い申し上げます。会費、口座番号および口座名義は下記の通りです。納入に当たっては、会員の皆様にお送りした納入用振替用紙か、郵便局に常備されている振替用紙をご利用下さい。過年度分の会費が未納の方は至急お支払い下さいますようお願い申し上げます（納入が確認でき次第、当該年度の機関誌をお送り致します）。

通常会員 7,000円

院生会員 6,000円（大学院に在籍し、かつ常勤の職を有しない会員）

国外会員 7,000円（国外に在住し、かつ国内に連絡先を有しない会員）

郵便振替口座 00950-2-148284

加入者名 日本犯罪社会学会

なお、銀行振込や小切手でのお支払いは受け付けておりませんのでご注意ください。また、領収書をご希望の方は、振替用紙の通信欄にその旨を明記して下さい。

### 5 本部事務局庶務部

(1) 献本(2014年1月10日～2014年5月7日現在)

下記の通り献本がありました。ご報告少々、お礼申し上げます。

- ・山本功著『逸脱と社会問題の構築』学陽書房
- ・長沼友兄編『高瀬真卿日記 三』淑徳大学アーカイブズ
- ・科学警察研究所「科学警察研究所報告」第62巻 第1・2号
- ・科学警察研究所「科学警察研究所報告」第63巻 第1号

- ・龍谷大学 矯正・保護総合センター「キャンベル共同計画介入・政策評価系統的レビュー」第8号
- ・法務総合研究所研究部「法務総合研究所研究部報告」52号
- ・龍谷大学矯正・保護課程委員会「矯正講座」第8号

・・・・・・・・・・以上7冊

(2) 会員動向(2014年5月7日現在)

会員数:名誉会員10名、通常会員449名、特別会員2団体

※個人情報保護のため、ニューズレターの記載は人数のみとします。会員各位には、年間2回(大会プログラム発送時、大会報告要旨集発送時)に会員動向の詳細版を同封いたします。

\*\*\*お願い\*\*\*

転勤等で所属や連絡先を変更された場合は、学会事務局まで速やかにご連絡下さい。

\*\*\*\*\*

事務局では、会員の皆様からのご意見、ご要望、インフォメーションなど随時承っております。

日本犯罪社会学会 事務局

〒577-0036 東大阪市御厨栄町3-1-35 学術センター U-Box 2F

TEL: 06-6618-4324 (月～金 10:00-16:00)

FAX: 06-6781-8883

E-mail: hansha@daishodai.ac.jp

\*お問い合わせ・ご連絡は、なるべくメールでお願いいたします。

\*\*\*\*\*